
自由の本質

蒼幻

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自由の本質

【Nコード】

N4669V

【作者名】

蒼幻

【あらすじ】

自由について二人の学生が語り合う。自由、正義、平等、見かけと本質の差を浮き彫りにしてみます。

「自由に振舞っていいなら、きみはどうする？」

「それはやりたいことをしますよ」

「やりたいこと……か。それはそうだね」

「当然ですよ」

大学の講義室で一年生の二人が話している。授業が始まるまでのひとときだ。甲は弘樹、乙は一郎、という青年である。

弘樹はさらに質問を重ねる。

「もし自由に振舞っていいと云われ、自分のやりたいことが他人に迷惑をかけることだったとしたなら、きみはどうする？」

「それでもやりたいことをやるか」といいたいところだけど、他人に迷惑をかけるなら、ぼくはやらないで抑えるかな」一郎は丁寧に答える。

「うん、そうだろうね、きみならそう答えると思った」

「でも、納得いかないな」

「うん？」

「自由にしていいって云われてるのに、他人のことを考えてしまつて自由に振舞えないのはジレンマだと思うよ」

「おれの云いたいことを代弁してくれたね」

「というと？」一郎は逆に訊ねた。

「いくら自由と云つても、それは個人にとっての真の自由ではないのではないか？　そう思うわけなんだ」

「そうだね、自由を阻害されるわけだからね」

「うん」弘樹は相手の言葉を吟味するように考えこんでいる。「でもね、阻害というには違うんじゃないか。阻害という場合、それは第三者からの能動的な働きかけであるわけだろう。でもね、この場合の自由が限定的になる原因とはむしろ、その人の内から生じる、

受動的な働きかけ、遠慮というものであるということだよ」

「わかりにくいけど、それって自分が原因ってことかな？」

「そうなるね、他人の自由を妨害することになるのではないかという危惧を、自分の自由の適用範囲を抑えることで問題のないものにしようとする、それは普通、社会的な人間ならだれしもがもつ感情であろうけれど、そうすると、個人的な自由は本質的には得られないのではないかと思うんだ」

「それはあるね……。ってことは、自由っていったいなんだろう？」

「おれは、個人の自由ってある意味、正義と一緒にだと思うんだよな」

「正義？」一郎は、二人の会話が新しいタームに入ったのを意識したのか背筋をぴくりとさせた。

弘樹は自分の主張を続けようと、言葉をつぐ。

「正義ってなんだと思う？」

「絶対的に正しいもの。それなくしては不義となるもの……かな」

「日本人に訊いたら、大多数がそう答えそうな類型的な答えだね」

「そうかな」一郎は自分の答えが、弘樹の期待に添う返答でなかったことを意識してはさしくなり、カーツと頬を赤くしてうつむいた。

「正義ってね、もっと利己的なものだと思うんだ」

「うん？」

「世界ではよく戦争が起こるだろう？」

「そうだね。中東とか、アフリカとか、そう云うところで頻繁に起こってる印象があるな。でも、それって、日本から遠く離れた国のことで、ぼくたちの生活に直接かわってくることでないから、あまり意識したことがないんだけど」

「そうか……」弘樹はくつと肩をすくめた。

「正義が利己的なものってどういうこと？ 道に照らして正しいものってこういうイメージがあるんだけど」

「ううん、ほんと違う」

「違う？」

「正義って云うのは、たとえば国が打ち出す政策なんかと同じで、その集団のなかでもっとも理屈の通る考え、人が受け入れやすい正当な考え、それを正義と云っているにすぎないんだ。たとえば、考えてみてくれ。アメリカとイラクが戦争をした。そのとき、アメリカはアメリカで自国に正義のあることを示して民意を得ようとした。そしてイラクはイラクで自論を展開し、自国にこそ正義のあることを国民に示して兵士を戦争に駆り立てた。正義と正義のぶつかりあいこそが、戦争の本質なんだよ。絶対的な正義なんてものは探し求めても、永久に見つからない。それは、宗教のなかで、偽物の光を放っているにすぎないんだ」

「ちよつと待ってくれ。正義って云うのはそんなにエゴイスティックなものなのか？」

「世界の情勢、各国の歴史を見れば一目瞭然だろう？ それとも、反証を示せるのかい？」弘樹はむっとしたように云った。

「反証……そんなものの準備はないけど、いま聞いたことに対する衝撃が去らなくて……」

「まあね、その一国の正義がどこまで他国の正義と衝突せずに貫き通せるか、これってさっきいった自由の話と同じと思わないかい？ つまり、個人の数だけ自由は理想世界のなかにあって、その理想的な自由を行使するには、他人の自由との共存を図っていかなくては、実現不可能であると云うことだよ。自由は決して自由なんかじゃない。真の自由なんて、自分が圧倒的強者にならなくては獲得不可能なんだ。そして普通の人間は圧倒的強者なんかになれないから、永久に、自由を手にすることはできない」

「なら、どうして自由なんて言葉ができたんだ？」一郎は弱々しい声で告げた。

「うん、そこをおれも考えてるんだ」と弘樹。「自由とか、正義とか、平等とか、意味が言葉のなかに留まってるときには、概念は

不都合のない理想の真円を描くのに、ひとたび濁世に出してみると、とたんに光を失って錆びついてしまうんだ。おれは、その不条理にせつなさを覚えるよ」弘樹は目を瞬「しばたた」いた。「とにかく、大学一年のおれには大きすぎる問題であるよ……」

「そうか」一郎も弘樹と同じように消沈した様子である。

やがて、チャイムがなった。

二人は正面を向いて、教壇にのぼってきた論理学の教授に注目した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4669v/>

自由の本質

2011年10月9日21時54分発行